

令和2年第2回定例会で意見が分かれた議案の採決

議席番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	14	16	17	18
議案番号	議決結果	中村哲康	近藤一宇	田中次廣	金子憲太郎	小林知誠	柴田恭成	高木和恵	吉田幸一郎	隈部和久	松永忠次	小嶋光明	黒岩英雄	中村久幸	川田典秀	吉岡巖	井上末喜
		議案第73号	原案可決	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第73号	原案可決	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
発議第1号	原案可決	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○:賛成 ×:反対 議席番号13番・15番は欠員

賛否討論

〔令和2年第2回定例会〕
採決が分かれた議案のうち、主な意見を紹介します。

【議案第73号】
令和2年度南島原市一般会計補正予算(第4号)

《反対》

議案第73号は、小学校教育振興費と中学校教育振興費として、国の補正予算に伴うGIGAスクール構想により、4年生以上の児童・生徒に1人1台の端末整備を行うためとして、小学校6,747万、中学校6,870万7千円が計上されている。

省の提起を受けて、昨年12月に打ち出されたものである。教育現場のICT環境の整備自体は重要であると思う。また、個々の子供に合った学習をきちんと保障することも大切である。

しかし、GIGAスクール構想による教育は、公教育への企業の参入を一層進め、集団的な学びがおろそかにされ、教育の画一化につながるおそれがある。

授業では、教師が子供の様子を見ながら、教師と子供、子供と子供の発言や作業を基に進めていく集団的な思考が必要である。型から外れたような発想を促す子がいて、そこから皆が学ぶことで、考えが深まることなくある。個別最適化された学習で効率よく学ぶだけでは、学ぶ過程が平板になり、深みがない学習になる。

GIGAスクール構想とは、個別最適化された学びを推進するために、情報通信技術(ICT)や先端技術を使い、一人一人の子供の学習傾向やスポーツ・文化活動などのデータを分析して、それぞれの子供に最適化された学習内容を提供するとし、経済産業省や文部科学

また、GIGAスクール構想による個別最適化では、学習意欲をどう引き出すかという視点もない。やる気のある子はどんどん進むけれども、そうでない子は、いくらあなたに合った学習だと言われても、やる気にはならない。できる子だけがどんどん進み、ここで格差が広がる。

国のGIGAスクール構想についての予算のつけ方も陰険である。今年度に予算申請をしないと補助はしないといっているから、それに乗じて、あまり議論されていないGIGAスクール構想を

取り入れ、1人1台の端末整備を行うのは、時期尚早ではないか。現在でも超多忙な教師の勤務時間、GIGAスクール構想による授業で、研修や準備でさらに忙しくなることは必ずである。今、子供たちに豊かな学びの実現を保障するためには、GIGAスクール構想を取り入れるのではなく、多忙な勤務内容の軽減、教員の増員こそが必要であると考える。

【発議第1号】

南島原市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について

《賛成討論あり》
《反対討論なし》
《賛成討論なし》